

日本女子大学所蔵『古今和歌集』紹介

坂本清恵・丸山麻結・岩間わかな・阿部えれな

日本女子大学文学部日本文学科が所蔵する嘉禄本『古今和歌集』（以下、女子大学嘉禄本とする）[wajiki13skok] の紹介をする。

当該書の購入経緯は次のように当時学科主任の上村悦子先生が書き残している。

伊勢物語・古今和歌集購入経緯について

貴重本の有無がその大学の格付のひとつにもなる現在、本学には原本や複製本は随分昭和五年より八年くらいにかけて大学本科が昇格準備のために購入してはいたのだがこれとて貴重写本が殆ど備えられていない。私は常日頃これを遺憾に思い、ぜひ備えておき度考えていたところ私が主任になった最初の主任会の折何か抱負をそれ／＼語れと上代学長にもとめられた際その事をも進言した。また国文学科の会でもその事を提唱しみなさまのご賛同を得たのである。折から文部省の私立大学研究設備整備費補助金が交付される事に

なったのでとりあえずそれで購入する事となり昭和三十九年六月中旬、井上百合子助教と私と神田の一誠堂に赴き折柄 恩賜京都博物館に長年陳列してあった旧柳沢家ご所蔵（柳沢家より須田家へ金子五十両借金のかたになつていたものを須田氏の所有に移しこの度一誠堂が購入された由）の伊勢物語一冊（はじめ七枚慈鎮和尚 あと二条為家筆）と古今和歌集（二条為世卿筆）上下二冊が懸この桐箱に入っていたのを購入する事になったのである。文学部長が中島武雄教授でそのご高配もあり手続きもスムーズに進み無事購入のはこびとなった。金額は七十五萬圓で一誠堂は私立大学研究設備費補助が八月交付されるまで支拂を待っていたいただき無事、日本女子大学国文学科研究室の所蔵に帰したものである。この書物購入の経緯を記しておく必要があると考え、疎略ながら伊勢物語・古今和歌集購入の経緯を記した次第である。

昭和四十四年七月九日

なお、七月九日 吉羽遂氏に右二本の写真をとってお願いしてもらった。

教授 上村悦子

このときにもに所蔵になった『伊勢物語』については『日本女子大学国語国文学論究』二（昭和四十六年）に紹介、翻刻されている。今回は、『古今和歌集』を紹介する。主に、大学院の授業にて、声点と書写本文の仮名文字について調査を行った。

【書誌】

二冊分冊 序から巻第十までと、巻第十一以降奥書までの二冊。

本体…縦23.9cm 横15.9cm

表紙…ともにくすんだ鶯色に赤・桃・青色の梅花が織り込まれた緞子題箋…鳥の模様のある題箋に「古今和歌集」とある。

見返し…金欄が散らされた見返し紙

本紙…厚めの鳥の子紙、列帖装である。

上冊 墨付き七十二丁。本文の前後一丁は白紙、本文は墨付き一

丁裏から七十二丁裏まで。十四丁裏と十五丁表は白紙。

第一括八枚、第二括八枚、第三括六枚、第四括八枚、第五括八枚を半分に折つてある。最後の五括目の二丁分が裏表

紙に取り込まれている。

下冊 墨付き七十六丁。本文の前後一丁に白紙、本文は墨付き一

丁裏から七十六丁裏まで。七十二丁裏と七十三丁表、七十五丁裏と七十六丁表は白紙。

第一括八枚、第二括八枚、第三括八枚、第四括七枚、第五括八枚を半分に折つてある。

奥書…冷泉家所蔵嘉禄二年本と同じ四月九日の奥書を持つ。為相に伝え

る為家の識語はない。

声点…朱の声点が比較的正確に差されている。

【懸子】『伊勢物語』『古今和歌集』が上下二段の桐の懸子（縦27.0cm、横18.9cm、高さ7.7cm）の上段に『伊勢物語』が、下段に『古今和歌集』が納められている。

箱蓋表には直書にて、

「三番

伊勢物語 慈鎮和尚 両筆 一冊

四番

古今和歌集 二条為世卿筆 一部」

箱蓋表の下部の貼り紙には、

(美) 乙第七八號	レ十五
(美) 乙第七九號	須田竹次郎

とあり、須田家で整理された番号が残っている。また、『古今和歌集』下巻に糸を通して「須田彦九郎」と書かれた貼り紙がある。

なお、箱蓋部分の内側に「341恩賜京都博物館」と書かれた貼り紙がある。

【鑑定書】

『古今和歌集』については以下の折紙と極札が付されている。ともに古筆家別家三代目了仲によるものである。

鑑定書の包み紙には「古今和歌集 二条為世卿筆 證文」と書かれ、四つ折りにされた奉書紙に以下が記されている。

「古今和歌集 全部

四半本 上下

二條家為世卿真

墨無狐疑者也

金子三拾五枚

元禄十六年

季夏上浣

古筆了仲

釣玄斎

『伊勢物語』にも同様の書き入れがある。なお、『伊勢物語』はこのときの鑑定では、「金子五拾枚」とある。

極札は「外題」と書かれた包み紙に入っており、以下のように記されている。

「二條家為世卿

古今和歌集 全部

守村

【本体】

本文二冊は猪子の包み紙があり、その表には以下の来歴が記されている。

「為世卿筆古今集二帖

大和郡山候柳澤家より江州

素封家須田家へ用立金の代

物として譲られたるものなり」

仮名使用と声点について検討を行ったが、調査にあたっては以下を参照した。

『嘉禄二年古今和歌集』冷泉本（冷泉家時雨亭叢書第二卷一九九四年

朝日新聞社）

『古今和歌集』高松宮本（一九四一年 開明堂）

『古今和歌集』伊達本（一九七一年 笠間書院）

『古今和歌集声点本の研究 資料篇』（一九七二年 校倉書房）

『古今和歌集声点本の研究 研究篇 上下』（一九八〇・一九九一年 校倉書房）

『僻案抄』声点付語彙索引』（二〇〇八年 アクセント史資料研究会）
末尾に嘉禄本の声点と比較の表を付したが、『僻案抄』の声点は以下による。

一 東山御文庫本「案秘」勅封（一八二・七・五）

二 国立歴史民族博物館蔵高松宮旧蔵本「僻案抄」

（国立歴史民俗博物館 貴重典籍叢書）文学篇 第十五卷

二〇〇二年 臨川書店）

三 京都大学附属図書館中院本「僻案抄」（中院 VI一五四）

四 天理図書館蔵本「僻案抄」（九一一二 イ一六五）

（天理図書館善本叢書 平安時代歌論集）35 一九七七年

八木書店）

【使用仮名について】

嘉禄二年の奥書を持つ定家筆本の冷泉本と高松宮本はともに一冊にまとめられ、為家の識語を持つが、女子大学嘉禄本は上下の二冊であり、為家の識語はない。

高松宮本は、冷泉本を書体、仮名字母までそのまま写し、冷泉本が280歌を貼り込んでいるところまで、同様に貼りこみをして忠実に再現されている。これに対して、女子大学嘉禄本は、280歌を本文に入れ込んで写し、冷泉本・高松宮本が補写している337歌を本文に入れ込んでいる。また、冷泉本が擦り消して訂正した「定文」「文室」は訂正したものを写してある。

仮名字について、鑑定にあるように為世筆を感じさせる書体ではあるが、冷泉家嘉禄本とは以下のような字母、字体などの違いがみられる。

・仮名字母が異なるもの 冷泉本・高松宮本↓女子大本 (ゴチックは複数例みられるもの)

き「幾」↓「起」・け「介」↓「計」・こ「己」↓「古」・さ「左」↓「佐」・さ「佐」↓「左」・さ「左」↓「散」・す「須」↓「寸」・た「堂」↓「堂」・た「堂」↓「太」・つ「徒」↓「川」・に「仁」↓「尔」・に「二」↓「尔」・に「尔」↓「仁」・に「尔」↓「耳」・ね「祢」↓「年」・ね「年」↓「祢」・の「乃」↓「能」・の「能」↓「乃」・は「者」↓「八」・は「者」↓「波」・は「八」↓「者」・は「八」↓「波」・ふ「不」↓「布」・ほ「保」↓「本」・ま「万」↓「末」・み「美」↓「三」・み「見」↓「美」・み「見」↓「三」・む「武」↓「无」・め「免」↓「女」・る「累」↓「留」・れ「礼」↓「連」・わ「和」↓「王」

・仮名字母が同じで字体が異なるもの 「世」「乃」「利」

・仮名表記と漢字表記とで異なるもの


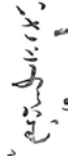

1006の長歌部分にみられる例のみ。

「宮」↓「みや(三世)」・とし(止之)↓「年」・心地↓「こ、ち(己々知)」・方↓「かた(可多)」・涙↓「なみた(奈三多)」・「時雨」↓「しくれ(之久礼)」・きみ(幾美)↓「君」・そら(曾良)↓「空」

916 詞書 ミセケチ「ころ」の個所訂正の「時」にして写す。

・異同

202 「左(さ)」を「万(ま)」としたもの。

 冷泉本  高松宮本  女子大本

780 女子大本のみ「尋ぬる」、他は「尋る」である。

 冷泉本  高松宮本  女子大本

789 詞書 女子大本「とふへりければ」、他は「とふらへりければ」である。

 冷泉本  高松宮本

824 女子大本のみ「あふ人の」、他は「あた人の」である。


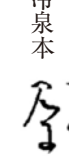
 冷泉本  高松宮本  女子大本

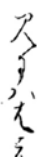
854 詞書 女子大本「侍ける時に」、他は「侍けむ時に」である。

 冷泉本  高松宮本

 女子大本

938 詞書 女子大本「みにははえいて」と他より「は」が一つ多い。

 冷泉本  高松宮本

 女子大本

965 女子大本「まつさの」、他は「まつまの」である。

 冷泉本  高松宮本  女子大本

987 女子大本「世中に」、他は「世中は」とする。

冷泉本
高松宮本
女子大本

1089 女子大本「おそこひしき」と「松」を「於」としたか。他本は「松そこひしき」。

冷泉本
高松宮本
女子大本

・女子大本で欠けているもの（該当箇所は、冷泉家時雨亭叢書のページ数もあげておく）

18 ページ2行目仮名序 女子大本のみ「あさか山かけさへみゆる山のぬのあさくは人をおもふものかは」の書き込みがない。

39 ページ9行目仮名序 女子大本のみ「あふきて今を」の「て」がない。

100 ページ11行目 詞書 女子大本のみ「きりのたてり」の「の」がない。

132 ページ7行目 作者名 女子大本のみ「ひてをか」の「か」がない。

176 ページ7行目 作者名 女子大本のみ「としゆきの朝臣」の「の」がない。

176 ページ9行目 女子大本のみ「ゆめのかよひち」の「ひ」がない。

180 ページ3行目 詞書 女子大本のみ「哥合のうた」の「合のうた」がない。

190 ページ6行目 作者名 女子大本のみ「よみ人しらす」がない。

210 ページ11行目 詞書 女子大本のみ「源の、ほるの朝臣」の下の「の」がない。

219 ページ7行目 女子大本のみ「人を思ふ心の」の「の」がない。

242 ページ4行目 女子大本のみ「かいのしつくか」の「い」がない。

265 ページ10行目 女子大本のみ「我か人かと」の「と」がない。

285 ページ5行目 1006の勘物 女子大本のみ「延喜七年六月八日崩卅六」がない。

【声点】

声点は朱屋声点である。仮名序の「おろそか也とて（平）」「思ひ（へ）つくみの」に朱点がみられるが、それぞれ対面にある「すなほ」の「な」の点、「かそへうた」の「そ」の点が付いてしまったものである。声点位置は正確であるが、写し忘れがみられる。

声点については、定家が『古今和歌集』に対して差したものと比較できるように一覽にまとめた。高松宮嘉禄本については、本学所蔵の開明堂の影印によるが、これは秋永一枝氏寄贈本であり、秋永氏が昭和四十六年八月二日に原本と照合して書き込みを行ったものである。また、『僻案抄』の声点についても東山御文庫本「案秘」については、秋永氏に同行し、坂本も原本調査を行ったが、他は先に挙げた秋永氏の調査報告のものを掲載する。

坂本清恵（日本文学教授）

丸山麻結（博士課程前期二年）

岩間わか（博士課程前期二年）

阿部えれな（学部四年）

東山御文庫本	箇所	高松宮本	中院本	天理本
N		N	N	N
N		N	N	N
N		N	N	N
N		N	N	N
N		N	N	N
N		N	N	N
N		N	N	N
上上上○○○	40才7	上上上○○○	上上上○○○	N
○平上○	1ウ2	○平上○	N?	○平上○
上平上	1ウ9	上平上	上平上	上平上
平上○○○	2才10	平上○○○	平上○○○	平上○○○
上上濁上上○平○	2ウ6	上上濁上上○平○	上上濁上上○平○	上上上平平○平
○○上上上濁上○	3ウ9	○○上上上濁上○	○○上上上濁上○	○○○○上濁?上○
たれしかも〈上上平上平〉	4ウ6	上上平上平	上上平上平	上上平上○
N		N	N	N
上上○○○○	6ウ10	上上○○○○	上上○○○○	N
平上濁上上上	6ウ6	平上濁上上上	N	平上濁○○○
N	6ウ6	N	N	平平平上○
上濁平○○○	7才9	上濁平○○○	上濁平○○○	上濁平○○○
平上濁○	5ウ10	平上濁○	平上濁○	〈脱落〉
○平濁上平○	6才1	○平濁上平○	○平濁上平○	〈脱落〉
N		N	N	N
平平○	7ウ5	平平○	平平○	〈脱落〉
平上濁平上○	7ウ9	平上濁平上○	平上濁平上○	平上濁○○○
平上○	7ウ10	平上○	平上○	平上○
N	8才4	N	N	○○上濁?平○
ありなめと〈○○上上○〉	8才5	○○上上○	○○上上○	N
上濁平	8才9	上濁平	上濁平	N
N		N	N	N
○○上平濁○	8ウ5	○○上平濁○	○○上平濁○	○○上平濁○
上濁平	9才1	上濁平	上濁平	上濁平
上上濁上上	9才9	上上濁上上	上上濁上上	上上濁上上
上平上平上	9ウ6	上平上平上	上平上平上	上平上平上
平上濁上○	10才4	平上濁上○	平上濁上○	平上濁上○
むかしへや〈○○○平濁○〉	10才9	○○○平濁○	○○○平濁○	○○○平濁○
平上上平上	11才8	平上上平上	平上上平上	平上上○○
N		N	N	N
平平上平上平○	14才3	平平上平上平○	平平上平上平○	平平上平上平○
○上平平濁平上	14才4	○上平平濁平上	○上平平濁平上	N
上上平?○	14ウ1	上上平?○	上上平?○	上上上?○
平上上	14ウ2	平上上	N	平上上

歌番号	該当箇所	女子大学嘉禄本	冷泉嘉禄二年本	高松宮嘉禄本	伊達本
仮名序	やまとうたは	平平上平平○	平平上平平○	平平上平平○	平平上平平○
仮名序	したてるひめに	上平平上○○○	上平平上○○○	上平平上○○○	上平平上○○○
仮名序	すなほにして	平上上○○○	平上上○○○	平上上○○○	平上上○○○
仮名序	そへうた	平平○○	平平○○	平平○○	平平○○
仮名序	かそへうた	平平濁平○○	平平濁平○○	平平濁平○○	平平濁平○○
仮名序	なすらへうた	上上濁上上○○	上上濁上上○○	上上濁上上○○	上上濁上上○○
仮名序	たゝことうた	平平濁平平○○	平平濁平平○○	平平濁平平○○	平平濁平平○○
仮名序	まくらことは	N	上上上○○○	上上上○○○	上上上○○○
2	袖ひちて	○平上○	○平上○	○平上○	○平上○
6	見らむ	○平上	○平上	○平上	○平上
7	おりければ	平上○○○	平上○○○	平上○○○	平上○○○
18	とふひののもり	N	N	N	N
30	みちゆきふりに	N	N	N	N
58	誰しかも	○平上平	○平上平	○平上平	○平上平
67	花見かてらに	○平平上○○	○平平濁上○○	○平平濁上○○	○平平上○○
77	いとさかりと	N	N	N	N
77	いさゝくら	N	N	N	N
77	ひとさかり	N	N	N	N
82	ことならは	上濁平上平上濁	上濁平上平上濁	上濁平上平上濁	上濁平上平上濁
85	よきて(ふけ)	N	N	N	N
85	心つからや	N	N	N	N
94	みわ山を	上上○○	上上○○	上上○○	上上○○
94	しかも	平平?上	平平上	平平上	平平上
95	いさけふは	N	N	N	N
95	なけの	平上○	平上○	平上○	平上○
97	はることに	N	N	N	N
97	有なめと	N	○上上○	○上上○	○上上○
98	(花の) こと	N	N	N	N
99	よきよと	平上濁○○	平上濁○○* 圈点があるように見える	平上濁○○	平上濁○○
111	こまなめて	○○上平○	○○上平○	○○上平○	○○上平○
126	(おもふ) とち	N	N	N	N
147	なかなく	上上濁○○	上上濁○○	上上濁○○	上上濁○○
152	やよやまで	上平上平上	上平上平上	上平上平上	上平上平上
160	とゝろに	N	N	N	N
163	昔へや	○平濁○	○平濁○	○平濁○	○平濁○
189	いつはとは	平上上平上	平上上平上	平上上平上	平上上平上
209	いとはやも	上平平上○	上平平上○	上平平上○	上平平上○
216	うらひれをれは	N	N	N	N
216	山したとよみ	N	N	N	N
223	たわゝに	N	N	N	N
223*	とをゝ	N	N	N	N

東山御文庫本	箇所	高松宮本	中院本	天理本
N		N	N	N
N		N	N	N
○上濁上平	14ウ6	○上濁上平	○上濁上平	N
上上濁上	15才5	上上濁上	上上濁上	上上濁上
平平上上濁○	16才2	平平上上濁○	平平上上濁○	〈脱落〉
○上上○	16ウ5	○上上○	○上上○	〈脱落〉
上上上上○○	16ウ7	上上上上○○	上上上上○○	〈脱落〉
N		N	N	N
N		N	N	N
N		N	N	N
N		N	N	N
上上上濁上○○	41才5	上上上濁上○○	上上上濁上○○	上上上濁上○○
N		N	N	N
平上濁○	42才4	平上濁○	平上濁○	平上濁○
平平上濁上○	17ウ3	平平上濁上○	平平上濁上○	平平上濁上○
平上平	17才4	平上平	平上平	平上平
N		N	N	N
N	18ウ1	N	N	平上上○○
N		N	N	N
平平平	19才8	平平平	平平平	N
上上上○	42才6	上上上○	上上上○	上上上○
N		N	N	N
平平濁平○	21ウ1	平平濁平○	平平濁平○	平平濁平○
上上平○	21ウ3	上上平○	上上平○	N
平平濁○上上平濁○	22才3	平平濁○上上平濁○	平平濁○上上平濁○	平平濁○上上平濁○
平濁上○	22ウ4	平濁上○	平濁上○	平濁上○
上上平濁上平	23才1	上上平濁上平	上上平濁上平	上上平濁○○
上○(墨圈)	42ウ6	上○(墨圈)	上○(墨圈)	N
N	43才1	N	N	上(朱)
平平上濁上濁平	24才7	平平上濁上濁平	平平上濁上濁平	平平上濁○○
○○平濁上○○	24ウ9	○○平濁上○○	○○平濁上○○	海へたにと〈○平平○○〉
平平○	25才2	平平○	平平○	平平○
平平○	25才5	平平○	平平○	N
上上平上○	25才8	上上平上○	上上平上○	○○平上○
○○平上○	25ウ3	N	N	N
N		N	N	N
N		N	N	N
N		N	N	N
平平平上濁平	27才1	平平平上濁平	平平平上濁平	N

歌番号	該当箇所	女子大学嘉禄本	冷泉嘉禄二年本	高松宮嘉禄本	伊達本
224	つゆしもに	N	平上平平○	平上平平○	平上平平○
224	ぬれて	N	N	N	○○上
323	冬こもり（せる）	N	N	N	N
366	すかる（なく）	上上濁上	上上濁上	上上濁上	上上濁上
376	あさなげに	平平上上濁○	平平上上濁○	平平上上濁○	平平上上濁○
388	人やりの	○上上○	○上上○	○上上○	○上上○
388*	ひとやりとは	N	N	N	N
402	ことは	上濁平上	上濁平上	上濁平上	上濁平上
418	たなはたつめに	N	○○○○上濁平○	○○○○上濁平○	○○○○上濁平○
422	うくひすとのみ	N	上平上平濁○○○	上平上平濁○○○	上平上平濁○○○
426	あなうめに	○○上平○	○○上平○	○○上平○	○○上平○
431	をかたまの木	上上上上○○	上上上上○○	上上上上○○	上上上上○○
436	うひにそ	上上○○	上上○○	上上○○	上上○○
445	めとに	N	平上濁○	平上濁○	平上濁○
454	いささめに	N	平平上濁上○	平平上濁上○	平平上濁上○
465	なかし	平上平	平上平	平上平	平上平
466	おきひむ	N	平平平○	平平平○	N
469	あやめ草	N	N	N	N
469	あやめも	平平平○	平平平○	平平平○	平平平○
469*	あやめ	N	N	N	N
476	ひをりの	上上上○	上上上○	上上上○	上上上○
484	はたてに	上上平○	上上平○	上上平○	上上平○
498	ほつえに	N	N	N	N
498*	はつえと	N	N	N	N
508	ゆたのたゆたに	平平濁○上上平濁○	平平濁○上上平濁○	平平濁○上上平濁○	平平濁○上上平濁○
550	かてに	上濁上○	上濁上○	平濁上○	上濁上○
619	よるへなみ	N	上上平濁○○	○上平濁○○	上上平濁○○○
640*	寵と	N	N	N	N
640	寵	N	N	N	N
669	うみへたに	N	N	N	N
669*	うみへたにと	N	N	N	N
669*	へたと	N	N	N	N
669*	へたは	N	N	N	N
702	すゑつゐに	N	○○平上○	○○平上○	○○平上○
702*	すゑつゐに	N	N	N	N
705	とひかたみ	N	○○上濁上平	○○上濁上平	○○上濁上平
753	なきたる	平上濁○○	平上濁○○	平上濁○○	平上濁○○
760	ふかめて	N	平平上○	平平上○	平平上○
761	もゝはかき	N	N	N	N

東山御文庫本	箇所	高松宮本	中院本	天理本
〇〇平上濁平	27才 6	〇〇平上濁平	〇〇平上濁平	N
N		N	N	N
N		N	N	N
今しはと〈〇平上〇〉	29才 3	今しはと〈〇平上〇〉	今しはと〈〇平上〇〉	〇〇平上平
〇平上上	29ウ 2	〇平上上	〇平上上	N
〈脱落〉		〈脱落〉	〈脱落〉	平平上〇〇〇〇
平上濁上	29ウ 7	平上濁上	平上濁上	平平濁上
上上〇	31才 4	上上〇	上上〇	N
上上濁平〇〇	33ウ 2	上上濁平〇〇	上上濁平〇〇	上上濁平〇〇
上上〇	32ウ 2	上上〇	N	上上上
N	32ウ 6	N	N	平平上
平上上〇〇	32ウ 8	平上上〇〇	平上上〇〇	平上上〇〇
平平平〇〇〇	43才 6	平平平〇〇〇	平平平〇〇〇	N
N	34才 2	N	N	上平〇〇
平上上〇	34才 9	N	N	平上上〇
平上〇	34ウ 8	平上〇	平上〇	N
去上濁〇	36才 7	去上濁〇	去上濁〇	去上濁〇
N		N	N	N
上上上平〇	37ウ 1	上上上平〇	上上上平〇	上上上平〇
上上上上〇	37ウ 9	上上上上〇	上上上上〇	N
N		N	N	N
N		N	N	N
N		N	N	N
N		N	N	N
平上平	38ウ 4	平上平	平上平	平上平
上上上〇〇	39才 8	上上上〇〇	上上上〇〇	N
上上上平平上平	39才 9	上上上平平上平	上上上平平上平	N

歌番号	該当箇所	女子大学嘉禄本	冷泉嘉禄二年本	高松宮嘉禄本	伊達本
761*	もゝよかき	N	N	N	N
769	さたの	上平濁○	上平濁○	上平濁○	上平濁○
772	こめやとは	平上上○○	平上上○○	平上上○○	平上上○○
773	いましはと	○○平上○	○○平上○	○○平上○	今しはと〈○平上○〉
773*	今しはと	N	N	N	N
805	いとなかるらむ	平平上平上○○	平平上平上○○	平平上平上○○	平平上平上○○
845	しつく	平平濁上	平平濁上	平平濁上	平平濁上
851	(昔の) こそに	N	N	N	N
891	(もと) くたちゆく	N	N	N	N
900	さらぬ	N	上上上	上上上	上上上
900*	さらぬ	N	N	N	N
903	せめきけむ	平上平○○	平上平○○	平上平○○	平上平○○
938?	あかた見には	N	N	N	N
946	しくめる	N	N	N	N
954	うけくに	平上上○	平上上	平上上○	平上上○
959	はしに	平上○	平上○	平上○	平上○
1001	えふの	去上濁○	去上濁○	去上濁○	去上濁○
1003	のはへまし	平平濁平○○	平平濁平○○	平平濁平○○	平平平○○
1003	やよければ	上上上平○	上上上平○	上上上平○	N
1008	(花) まひなしに	N	N	N	N
1052	まめなれと	上上○○○	上上○○○	上上○○○	上上○○○
1052	よけく	平上上	平上上	平上上	N
1060	そへにとて	N	上平上○○	上平上○○	上平上○○
1072	ねての	上平平	上平平	上平平	上平平
1094	めさし	平上平	平上平	平上平	N
1097	けゝれなく	上上上○○	上上上○○	上上上○○	上上上○○
1097	よこほりふせる	N	N	N	N

- ・歌番号に*の印は、『僻案抄』の注部分の差声である。
- ・938? はおそらく938詞書への差声であろう。